2022年度　須磨学園中学校入学試験

国　　語

第 3 回

（注　意）

　解答用紙は、この問題冊子の中央にはさんであります。まず、解答用紙を取り出して、受験番号シールを貼り、受験番号と名前を記入しなさい。

１．すべての問題を解答しなさい。

２．解答はすべて解答用紙に記入しなさい。

３．字数制限のある問題については、記号、句読点も１字と数えること。

４．試験終了（しゅうりょう）後、解答用紙のみ提出し、問題冊子は持ち帰りなさい。

※　設問の都合上、本文を一部変更している場合があります。

須磨学園中学校

※この冊子は再生紙・ベジタブルインキを使用しています。

一　次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

ア ユーモアはコミュニケーションの潤滑油だが、ユーモアのあるところを見せようとして悪い結果を招いてしまうことも少なくない。

【相談】私は普段からよく冗談を言い、友人たちもそれを面白がってくれています。しかし先日、友人の一人が「最近、彼氏があまり連絡してくれなくなった」と言うので、冗談のつもりで「浮気でもしてるんじゃないの？」と言ったところ、その友人は泣き出してしまいました。友人の彼氏は浮気するような人ではないし、私の言い方だと冗談にしか聞こえなかったはずなのですが、いったい何が悪かったのでしょうか？

とりあえず、相談者の冗談が全然面白くないことはX脇に置いておこう。ここでは、冗談のつもりで発した言葉がトラブルに発展するケースについて考えたい。冗談が他人との軋轢[注1]を引き起こすパターンにはいくつかあるので、順に見ていこう。

・冗談のつもりだったのに、本気の発言だと受け止められる

これは一番分かりやすく、よくあるパターンだ。過去には、差別的なブラックジョーク[注2]をSNS[注3]に投稿した人が、多くの人々に本気の発言だと受け止められてしまい、大炎上[注4]したあげく職まで失ったという事件があった。また、空港の係員に冗談のつもりで「俺はテロリストだ」と言った人が拘束されたケースもある。

冗談においては、話し手の発言の文字どおりの意味と、そこに込められた話し手の意図が大きくかけ離れていることが多い。話し手が文字どおりの意図を持っていないことが聞き手に伝わるには、話し手の人となりや、その発言に至るまでの文脈などが聞き手に理解されていなければならない。【　A　】、話し手の表情や音声も重要な手がかりとなる。SNSのように、相手の顔も見えず声も聞こえず、言葉が文脈から切り離されやすく、さらに不特定多数の人々にaカクサンされやすい状況では、冗談が冗談として受け止められなくなるbキケン性が高い。

・冗談の内容が相手の不安や不快感をかき立ててしまう

これは、冗談であるということ自体は聞き手に伝わったのに、冗談の内容に問題があるため笑えないというものだ。実は、先の相談の問題点の一つはここにある。

先の相談には、相談者は普段から冗談を言う人で、友人もそれをよく知っているという前提があった。また、言い方や声の調子からも、相談者が冗談で「（あなたの彼氏は）浮気でもしてるんじゃないの？」と言っていることが聞き手に通じているはずだ。しかし、たとえ聞き手が「話し手は冗談のつもりで言っているのだろう」と理解しているとしても、もしその内容が聞き手自身にとって「本当かもしれない」のであれば、イその冗談は必ずしも笑えない。つまり、聞き手である友人がほんの少しでも彼氏の浮気を疑っているのであれば、相談者の冗談がその不安をかき立ててしまう可能性がある。

同様に、冗談を言うこと自体には問題のない流れであっても、冗談の内容がYショッキング過ぎたり、倫理的[注5]に問題があったりする場合には、相手に眉をひそめられることになりかねない。いくら冗談であることが明確であっても、話し手がそういう言葉を口に出していいと思っていること自体は他人に伝わり、「　　※　　」と問題視される可能性がある。

・冗談を言っていい状況かどうかの判断を誤っている

先の相談のケースにはこの問題もある。【　B　】、もし相談者が「（あなたの彼氏は）浮気でもしてるんじゃないの？」と言うかわりに、ツチノコ[注6]でも探しに行ってるんじゃないの？」とか「山にこもって空手の修行をしてるんじゃないの？」と言ったならば、聞き手がそれを「実際にそうかも」と思う可能性は低い（ただし、彼氏がオカルト[注7]好きだったり空手家だったりする場合は別だ）。しかしその場合でも、友人は相談者に対して「私が真剣に悩んでいるのに、冗談で返すなんてひどい」とか、「私の悩みなんかどうでもいいと思っている」と思うかもしれない。つまり、ウ「そういう状況で冗談を言うこと」自体が問題になることもあるのだ。

このように考えると、冗談が通じて、【　C　】言った方と聞いた方の両方が笑顔になるのはcソウトウハードルの高いことであるようだ。今のdゴジセイ、eエダレも不快にならない冗談を言える人がいたら、もっとショウサンされていいのかもしれない。

次の相談者のように、空気の読めない人に悩まされたことのある人も多いだろう。

【相談】最近、取引先の担当者が変わりました。前の担当者は　Ⅰ　に長けた人で、私がはっきり言わなくてもこちらの希望をよく汲み取ってくれたので、交渉がとても楽でした。私が取引の条件を気に入っていないときなども、その人は私の顔色からそのことを察してくれて、別の案を出してくれたりしたのです。

しかし、新しい担当者はまったく気が利かない人で、こっちが一から十まで全部口に出さないと分かってくれません。あまりにも面倒なので、皮肉を込めて「あなたは本当に物分かりがいいですね」と言ったところ、「ありがとうございます」と本気にしてしまいました。その上、その人はおしゃべり好きで、時間を気にせず余計なことばかりしゃべります。この前も話が長くなりそうだったので、時間を気にしろと言うつもりで「いい時計してますね」と言ってみたら、「分かります？　実はこの時計、〇〇社の△△で……」と、さらに話が長くなりました。私が不機嫌な顔をしても、ほとんど気に留めません。本当に困るのですが、どうしたらいいでしょうか？

空気を読んだり他人の気持ちを汲み取ったりするのは、円滑なコミュニケーションのために重要だ。しかしこの相談のように、相手にそれをさせようとしてもなかなかうまくいかないことがある。相談者は皮肉のつもりで相手に「あなたは本当に物分かりがいいですね」と言ったり、時間を気にしろというつもりで「いい時計してますね」と言ったりしたが、相手にはそれらの発言に込められた「言外の意味」が伝わらなかった。相談者は相手の　Ⅱ　と常識のなさを嘆いているが、相談者の発言を眺めてみると、その真意を汲み取るのはかなり難しそうだ。なぜかというと、聞き手が「これは文字通りに受け取ってはいけない言葉だ」と理解するための　Ⅲ　がほとんどないからである。

（川添愛『ふだん使いの言語学』による）

注1　軋轢 … 仲がわるくなること。
注2　ブラックジョーク … 不道徳で悪趣味な冗談。
注3　SNS … ツイッターなどの、人と交流することなどを目的とするインターネット上のサービス。
注4　大炎上 … インターネット上で、失言などと判断されたことをきっかけに、批判が集まって収拾がつかなくなること。
注5　倫理 … 生きていく上で守るべきこと。
注6　ツチノコ … 日本に生息すると言われている未確認動物のひとつ。
注7　オカルト … 科学で説明がつかない現象や存在。

一の設問

問一 【 A 】～【 C 】に入る語として最も適当なものを後からそれぞれ一つずつ選び、番号で答えなさい。

【 A 】
1 だから　2 また　3 ただし　4 ところで

【 B 】
1 しかし　2 しかも　3 むしろ　4 たとえば

【 C 】
1 逆に　2 または　3 なおかつ　4 それでも

問二 〰〰線部X、Yの本文中での意味として最も適当なものを後からそれぞれ一つずつ選び、番号で答えなさい。

X「脇に置いて」
1 なかったことにする　2 もっともだと思う
3 あきらめる　4 ふれないようにする

Y「眉をひそめ」
1 常識がないと判断して見下す
2 不快に感じて顔をしかめる
3 理由が分からず考えこむ
4 失礼だと思っていきどおる

問三 「ユーモアはコミュニケーションの潤滑油だ」（――線部ア）とはどういうことですか。その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。
1 ユーモアがなければコミュニケーションは成り立たないということ。
2 ユーモアの効果によってコミュニケーションがうまくとれるようになるということ。
3 ユーモアにたよることでむしろコミュニケーションが悪い方向に進むということ。
4 ユーモアはコミュニケーションをとる上で最も重要な要素だということ。

問四 Ⅰ ～ Ⅲ に入る語として最も適当なものを後からそれぞれ一つずつ選び、番号で答えなさい。

Ⅰ
1 以心伝心　2 一石二鳥
3 取捨選択（せんたく）　4 創意工夫

Ⅱ
1 無礼さ　2 鈍感（どんかん）さ　3 気の長さ　4 心外さ

Ⅲ
1 経験値　2 発信力　3 手がかり　4 賢（かしこ）さ

問五 「その冗談は必ずしも笑えない」（――線部イ）とありますが、なぜですか。その理由の説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。
1 話し手が冗談のつもりで言っていると聞き手が理解していても、実際に起こる可能性があると感じていれば、聞き手は不安になるから。
2 話し手が冗談のつもりで言っていても、聞き手が冗談だと受け取らなければ、結局は聞き手の不安をあおることにつながるから。
3 話し手が冗談のつもりで言っているかどうかを判断するには、聞き手は言葉だけでなく言い方や表情などについても考える必要があるから。
4 話し手が冗談で言っていると聞き手に伝わっても、それをきっかけに聞き手は今まで予想していなかった悪い結果を想像してしまうから。

問六 ※ に入る語句として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。
1 冗談だと分からない冗談を言ってはいけない
2 冗談も口に出すことで現実になるかもしれない
3 冗談でもそんなことを言うべきではない
4 冗談を言っていいときと悪いときがある

問七 「そういう状況」（――線部ウ）とありますが、どういう状況ですか。本文中の語句を使って十字程度で説明しなさい。

問八 「誰も不快にならない冗談を言える」（――線部エ）とありますが、そのために発言者が気をつけるべきこととして**当てはまらない**ものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。
1 話し手に冗談だとはっきり分かるように、冗談を言うときの声色を変えること。
2 冗談を言っていいときかどうかを聞き手の状況から判断した上で、冗談を言うこと。
3 ＳＮＳでは不特定多数の人が見ていないことを確認してから、冗談を言うこと。
4 冗談の内容が聞き手に不安をあたえないかを考えてから、冗談を言うこと。

問題は、裏面に続きます。

問九　「言外の意味」（――――線部**オ**）とありますが、言外の意味を正しく理解している例として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

1　「本当に物分かりがいい」と皮肉を言われて、もっと相手の意図を汲めるように努力する。

2　「本当に物分かりがいい」と皮肉を言われて、もっと頻繁（ひんぱん）に相手と連絡をとるようにする。

3　「いい時計をしていますね」と皮肉を言われて、もっと面白い話をできるように心がける。

4　「いい時計をしていますね」と皮肉を言われて、自分の話を早く終わらせて相手にも話してもらうようにする。

問十　═══線部**a**～**e**のカタカナを漢字で答えなさい。

a　カクサン　　**b**　キケン　　**c**　ソウトウ

d　ジセイ　　**e**　ショウサン

二

次の文章は、「襦袢の竹、路地の花」の一節です。お針子（着物を縫う仕事をする娘）の齣江と近所のおかみさん、トメさん、糸屋の青年の元に、弥生坂の質屋の親爺さんが亡くなったという知らせが入りました。以下はそれに続く場面です。これを読んで、後の設問に答えなさい。

「しかし僕は嫌だなあ。あの親爺みたいに陰に生きて影のまま死んでいくのは。働いた甲斐も存在した意義もないようですよ」

糸屋が云うと、トメさんは顔を八角に角張らせた。

「……まさかおまえ、名を成すことが仕事を極めることだとでも思ってるんじゃなかろうね」

「え？　そりゃあそうでしょう」と青年は鼻の穴を膨らます。

「といって、別段著名になりたいわけじゃあないですよ。後世に名を残そうなんて大それたことも考えちゃいません。さすがに僕ぁそこまで浅はかじゃあないですよ。しかしですね、名が通れば周りの扱いだって違ってくるし、いろいろ融通が利くようになる。商売人にはずいぶん有利に働くんですよ」

「名だけで寄ってくる奴なんざ、大概、自分の目で判じることもできないつまらん連中だよ」

「え……そうなのかなぁ。まあ、［　I　］とも云いますけどね、ただそれは昔のことですよ。結局、前に出たほうがなんにしても得だ。声の大きい奴が勝つんです。それが当代風、あ、いや、モダニズム[注1]っていうんですか」

「なにがモダニズムだ。とってつけたようなことばっかり云いやがって」

トメさんは「胸くそ悪い」と吐き捨てて、雨の路地へと出ていった。糸屋は「相変わらず口の悪い婆さんだ」と笑ってから、黒味を帯びた金に染め上げた糸を齣江の前に置いた。

「これもずいぶん手間取りましたよ。難しい色ですからね。しかし襦袢[注2]なんぞにこんな贅沢するなんて、奇特[注3]な人もいるもんだ。金がうなってしょうがないのかな」糸屋は衣桁[注4]をしげしげと眺めて腕を組む。

「あら。［　X　］は地味にして［　Y　］を凝るのがほんとの粋人[注5]なのよ」

「でも着物で隠しちゃせっかくの柄も見えないでしょう。せいぜい衿が覗くくらいで。だったら僕はその分、着物に金を使ったほうがいいや。みんなの目につきますからね」

齣江はつっと立ち上がり、まだ針を入れていない黒羽二重の反物を襦袢の上にすっぽりかぶせた。「このくらいの旦那になると」と講談調の節をつけて語り出す。

「遊びに行くことも多くなる。女の人とふたりになったところで一枚着物を脱ぐ……」

彼女はサッと反物を取り去った。当然のことながら例の襦袢が現れた。その柄をすでに知っていたにもかかわらず糸屋は「おっ」と声をあげた。短い時間でも黒の無地に慣れた目には、金色の竹模様がひどく華やかに映ったのだ。

「こんな旦那を、女の人はどう思うかしら」

彼女が問うと、糸屋はうっとり顔を緩めた。おおかた、この襦袢を自分が身につけて遊びに行った姿でも夢想したのだろう。

弥生坂の質屋[注7]の親爺さんは、梅雨が好きだった。

町で客とすれ違っても、傘で面を隠して知らぬふりがしやすかったからだ。

奉公[注8]で入ったこの店を、子のいなかった先代から二十五歳で譲り受けたとき、彼はひとつの言葉を預かった。

「質屋はなにより、客に気まずい思いをさせてはならねぇよ。そいつが一番大事なことだ」

人々がどんな思いで質草を入れにくるのか、少ない会話の端々から親爺さんはしみじみと感じ取っていた。だから店でもなるたけ客の目を見ないようにした。道端で会ってうっかり挨拶などして向こうが気まずい思いをするのも辛いから、お得意さんにも他人行儀で通した。自分のことは幽霊かなにかだと思ってくれればいい、と常々胸の内で念じてもいた。

その分、仕事には人一倍真面目に取り組んだ。書画骨董、刀剣の知識まで蓄え、品を見て値付けに迷い、客を待たせるようなしくじりをしでかさないよう気を張り続けた。質草は定めた期限よりも三日四日長めに取り置く。その間に金を工面してきた客には、気持ちよく品を返した。ただし感謝の言葉を述べられても、必ず聞こえないふりをした。恩を売ればそれだけ、相手が［　II　］思いをすると知っていたからだ。

親爺さんの小さな楽しみは、仕事のあとに晩酌をしながら花札を並べることだった。遊び方は知らない。ただ札に描かれた絵を眺めるのが、なによりの楽しみなのだった。誰が描いたか知れないが誰もが知っているその絵柄は、彼の目にはどんな美術品よりも尊く見えていた。

親爺さんが六十に近づいた頃から、店は一番下の息子が手伝うようになっていた。上のふたりの息子が、家業を嫌って家を出ていたからだ。三男坊はこまめに働いたが、やはり毎日、面白くなさそうな顔をしていた。それを気にして親爺さんは、何度となく「この店は俺の代で終わらせていいんだよ」と息子に云った。これからの若者が就くにはきつい仕事だろう、夢も華もないのだから。息子はなにも応えず、曖昧にうなずくだけだった。それでも壺だの簞笥だのといった大物を引き取る作業は息子に頼らざるを得ず、ふたりして黙々と仕事にいそしむ日が何年か続いた。

あるとき、家に眠る大量の骨董を処分したい、という客からの請いに応じ、荷車一杯に品物を積んで帰ってきた息子は、親爺さんにこんなことを云ったのだ。

「立派な屋敷だったよ。腕のいい大工の仕事だろう。どういう職人だったのか気になってね、家主に訊いたんだが、先々代が建てたとかで大工の名までは知らない、って」

抑揚のない声だったが、日頃、口数の少ない息子がこうして言葉を継ぐのは珍しいことだった。

「ところが質草が眠ってるっていう屋根裏に登ったらさ、梁[注10]に墨で棟梁[注11]の名が書いてあった。大工ってのは、あんな誰の目にも触れないところに銘を入れたんだね」

「そうさねえ。刀鍛冶の銘も、普段は柄で隠れて見えない茎[注12]に切ってあるからな。まあ、名だけなら騙り者でも真似られる。肝心の善し悪しは、ものを見りゃちゃんと表れているもんだ」

親爺さんが云うと、息子は淡々と続けたのだ。

「梁を見ながらさ、父さんの仕事もこういうことじゃないかと思ってね。俺はまだまだ修業が足りなくて父さんのようにはいかないが、名じゃなく実を見てくれる客に、通じる商売をしたいと思ってね」

その夜、親爺さんは遅くまで眠れなかった。ひとり酒を飲みながら、ちゃぶ台一面に並べた花札を眺めていた。親爺さんにとってそれは、生涯で一番幸せな晩になった。そしてそのとき感じた幸せは、生を終えるその瞬間まで、親爺さんのお腹の奥を静かに温め続けていた。

（木内昇『よこまち余話』による）

注1　モダニズム …… 現代的で新しい感覚を好むこと。
注2　襦袢 …… 和服の下に着る肌着。
注3　奇特 …… ここでは風変わりの意だが、本来は、行いや心がけがまれに見るほどすぐれているの意。
注4　衣桁 …… 室内に置いて衣服を掛ける家具。形は鳥居に似ている。
注5　粋人 …… 言動や姿があかぬけている人。
注6　講談 …… 小机を前に置き、物語を一人で読み聞かせる芸。
注7　質屋 …… 物品を質にとって金銭の貸し付けを行う店。客がお金を返せなかった場合、質の品物（質草）は店のものになる。
注8　奉公 …… 店などに住み込み、そこの家業の手伝いをすること。
注9　梁 …… 屋根をささえるために横に渡した、太くて長い材木。
注10　棟梁 …… 大工のかしら。
注11　茎 …… 刀身の、柄（刀剣を手で持つ際に握る部分）の中に入った部分。
注12　騙り者 …… 人をだます者。詐欺師。

二 の設問

問一 Ⅰ ・ Ⅱ に当てはまる語句として最も適当なものを後からそれぞれ一つずつ選び、番号で答えなさい。

Ⅰ
1 虎の威を借る狐
2 能ある鷹は爪を隠す
3 猿も木から落ちる
4 魚心あれば水心

Ⅱ
1 ひもじい
2 険しい
3 したわしい
4 侘しい

問二 「あの親爺」（――線部ア）とありますが、これ以降の質屋の「親爺」についてのやり取りの説明として、最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

1 親爺のふるまいの真意を知らない糸屋の青年は、親爺の仕事を地味なものだと見下しているが、トメさんと齣江はそれぞれに親爺の考え方を評価する言動を見せている。
2 親爺とは感じ方の違う糸屋の青年が、親爺の仕事を取るに足りないものとして軽べつしていることに対して、トメさんと齣江は怒りと不快感をそれぞれ隠せないでいる。
3 親爺とは大きく年が離れた糸屋の青年が、親爺の仕事の意義に気づかないまま、冷やかすような言葉を発したことで、トメさんと齣江はそれぞれ落胆した様子を見せている。
4 親爺の客への配慮に気づかない糸屋の青年は、親爺の仕事を中身のないものとして軽んじているのに対して、トメさんと齣江は若い糸屋に助言するような態度をとっている。

問三 X ・ Y に当てはまる語として最も適当なものを後からそれぞれ一つずつ選び、番号で答えなさい。

X
1 生地
2 柄
3 色
4 裏
5 表

Y
1 柄
2 色
3 糸
4 着物
5 襦袢

問四 「親爺さんの小さな楽しみは、仕事のあとに晩酌をしながら花札を並べることだった」（――線部イ）とありますが、なぜ楽しみとしていたと考えられますか。それを説明した次の文に当てはまる語として最も適当なものを本文中からそれぞれ一字で探し、抜き出して答えなさい。

花札の絵柄は「誰が書いたか知れない」点で【 A 】を持たないが、「誰もが知っている」ほど優れた図案である点で【 B 】を持っていて、それが親爺には尊いことだと感じられたから。

問五 「日頃、口数の少ない息子がこうして言葉を継ぐのは珍しいことだった」（――線部ウ）とありますが、息子の心情の変化として最も適当なものを次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

1 年老いた父を気づかって家業を手伝いながら、質屋の仕事の意義を見つけようとしていたところ、物事の善し悪しを知る経験をしたことで、自分も父親のように、名にだまされずに本当によい物を見抜ける質屋になろうと意気込んでいる。
2 年老いた父を気づかって家業を手伝いながら、質屋の仕事を内心では立派に思っていたが、生来の口下手から何も言えずにいたところ、善い仕事に感動したのをきっかけに、父に心の内を伝えることができ、晴れやかな気持ちになっている。
3 年老いた父を気づかって家業を手伝いながらも、質屋の仕事をつまらないものと感じていたが、立派な仕事のあり方を目の当たりにしたことで、実力のある大工や父親のように後世に認められる仕事をしたいと前向きな気持ちになっている。
4 年老いた父を気づかって家業を手伝いながらも、質屋の仕事にやりがいを見いだせずにいたが、いい仕事とは何かを知ったことで、父親を尊敬するとともに自分の目指すべき方向が明らかになり、仕事に希望を持っている。

問六 「その夜、親爺さんは遅くまで眠れなかった」（――線部エ）とありますが、これはなぜですか。直後の「花札」が表す親爺の思いをふまえつつ、「花札」という語を用いて一〇〇字以上一二〇字以内で説明しなさい。（句読点も一字として数えます。なお、採点については、誤字・脱字や、適切に解答らんを使用しているか等についても見ます。）

問題は、裏面に続きます。

問七　本文の表現についての説明として**明らかな誤りを含むもの**を次の中から一つ選び、番号で答えなさい。

1　「トメさんは顔を八角に角張らせた」（3行目）と「青年は鼻の穴を膨らます」（6行目）は、前者は相手の言葉への反発心、後者は自分の言葉に興奮している気持ちを、心情語を用いず双方の表情を描写することで表している。

2　「『相変わらず口の悪い婆さんだ』と笑ってから」（21行目）という糸屋の言葉には、表面上は口汚くののしりながらも、本心では自分のことを思って叱ってくれているトメさんへの親愛の情が表れている。

3　45行目「弥生坂の質屋の親爺さんは、梅雨が好きだった」という描写は、好きな季節までもが仕事に関係のあるものであった点で、どこまでも仕事に実直である親爺の素朴な人柄が表れた表現になっている。

4　78行目「ふたりして黙々と仕事にいそしむ日が何年か続いた」では、ふたりが口数の少ない真面目な性格であることを表すとともに、質屋の仕事が好きになれないままでも何年間も父を支え続けた息子の忍耐強さも暗に示されている。

↓ここにシールを貼ってください↓

受験番号

名前	

２０２２年度　須磨学園中学校　第３回入学試験解答用紙　国語

一

（※の欄には、何も記入してはいけません）

問一	問二	問三	問四	問五	問六	問七	問八	問九	問十
※	※	※	※	※	※	※	※	※	※
A	X		Ⅰ						a
B	Y		Ⅱ						b
C			Ⅲ						c
									d
									e

※

二

（※の欄には、何も記入してはいけません）

問一	問二	問三	問四	問五	問六	問七
※	※	※	※	※	※	※
Ⅰ		X	A			
Ⅱ		Y	B			

120　100　80　60　40　20

2022SUMAJO310

※　※